

## 暖かくなると

### 1. 越冬したチョウ

天気の良い日、日の当たっている場所に行ってみましょう。成虫で越冬していた昆虫たちが活動を開始しています。ビロウドツリアブのホバリングと、落ち葉の上での日向ボッコはわずかな日当たりでも見られますが、広がりのある場所ではチョウが地面の上で翅を広げて太陽エネルギーを吸収しているところに出会います。そっと近づいて陰で覆ってやると場所を変えます。成虫越冬のチョウのうち打吹山でよく見られるものは、テングチョウ、ヒオドシチョウ、キタテハ、ルリタテハです。

テングチョウ、ヒオドシチョウ、キタテハは落ち葉のある場所で、ルリタテハは樹幹や黒っぽい場所で日光浴をします。羽化後長らく風雨に遭ってきたため、色の鮮



日光浴をするヒオドシチョウ



日光浴をするルリタテハ

やかさが失われています。自らの色彩を知り、よく似た背景の場所を選んで休んでいるので、足元から飛び立った瞬間に気づくことが多いのです。

日が陰ると、また物陰に入って眠ってしまいます。何度も起きたり眠ったりすることはエネルギーを消費しますが、吸蜜するような花もほとんどありません。必要はないようです。秋の内に十分脂肪を蓄え、産卵して次代を残す体力はすでに持っているはずです。

### 2. ニガキの展葉

#### 《ニガキの展葉の様子》



①3. 16



②3. 23



③3. 31



④4. 14

ソメイヨシノの開花に合わせるように、葉を展開してくる木があります。ニガキです。葉・皮・材といった木のどこもが苦いので苦木です。材の粉末が胃腸薬に用いられています。奇数羽状複葉はウルシのようで目立ちますが、かぶれたりしません。

越冬芽は、葉が変化した鱗片に包まれておらず、伸長前のちぢこまった葉が団子状になった裸芽とよばれる状態です。葉裏が表面に出ているのですが、そこは毛が密生して保温をしているようです。気温の上昇とともにこれが開いてくるのですが、そのスピードには驚くものがあります。細胞分裂して開いてくるのではなく、個々の細胞の内容物が増加し、大きくなることで、葉の長さや面積が広がっていく様子が日々目に見えます。直径5mmばかりの芽から、20cmばかりの複葉になるまでの所要時間は23日間でした。

(倉吉博物館専門委員 國本洸紀 2016)